

第26回 ロビー音楽会



演奏 : 九州交響楽団の仲間たち

日時 : 2014年8月28日(木)
午後6時30分開演

会場 : 前田病院外来ロビー

Yama ちゃんの

おしゃべりコンサート 8月

ヴィオラ奏者山下典道「Yama ちゃん」の司会進行でお届けする
室内楽のひとつきを、どうぞお楽しみください。



〈演奏 九州交響楽団の仲間たち〉

- | | |
|-----------|--------------------|
| 佐藤仁美 | (九州交響楽団ヴァイオリン奏者) |
| 猿渡友美恵 | (九州交響楽団ヴィオラ奏者) |
| 山下典道 | (九州交響楽団ヴィオラ奏者) |
| 原田哲男 | (九州交響楽団首席チェロ奏者) |
| タラス・デムチシン | (九州交響楽団首席クラリネット奏者) |
| 中川淳一 | (ピアニスト) |

<プログラム>

☆ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685~1750)

<無伴奏チェロ組曲>より

VC 原田哲男

☆ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756~1791)

<クラリネット五重奏曲>より第2楽章

Cl タラス・テムチシン

1st Vn 佐藤仁美

2nd Vn 山下典道

Va 猿渡友美恵

VC 原田哲男

☆ヨハネス・ブラームス (1833~1897)

<ヴァイオリンソナタ第1番「雨の歌」>より第1楽章

Vn 佐藤仁美

Pf 中川淳一

☆フランツ・シューベルト (1797~1828)

<アルペジオーネソナタ>より第1楽章

Cl タラス・テムチシン

Pf 中川淳一



☆ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

<ケーゲルシュタットトリオ>より 第1楽章

Cl タラス・テムチシン

Va 山下典道

Pf 中川淳一

☆カール・マリア・フォン・ウェーバー (1786~1826)

<グランド・デュオ・コンチェルタント>より第3楽章

Cl タラス・テムチシン

Pf 中川淳一

☆ヨハネス・ブラームス

<ピアノ四重奏曲第1番>より第1、4楽章

Vn 佐藤仁美

Va 猿渡友美恵

VC 原田哲男

Pf 中川淳一



医療法人幸善会 前田病院

〒848-0027 佐賀県伊万里市立花町 2742-1

TEL 0955-23-5101 FAX 0955-23-3315

URL:<http://www.maeda-imari.or.jp>

☆クラリネット

マウスピースに付けた 1 枚のリード (reed 葦の茎) によって音を出す木管楽器。オスマン帝国軍楽隊のズルナ (チャルメラ, シャリュモー, ショーム) を原形として, 17 世紀頃にオーボエ (2 枚リード) が生まれ, さらに 18 世紀の初め頃に, シングル・リードのクラリネットが作られた。リードは葦製が一般的であるが, 気温や湿度の影響を受けやすく, その日の演奏環境や保存状態によって, リードの状態は刻々と変わり続ける。これをいかに管理するかが良いリードを使い続けるポイントであり, プレーヤーの悩みどころでもある。



ズルナ



メフテルハーネ (軍楽隊)

☆ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685~1750)

<無伴奏チェロ組曲>

チェロ独奏用の 6 曲からなり, それぞれ前奏曲 (プレリュード)、アルマンド、クーラント、サラバンド、メヌエット (第 3, 4 番はブーレ、第 5, 6 番ではガヴォット)、シエグの 6 曲構成となっている。

☆ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756~1791)

<クラリネット五重奏曲>より第 2 楽章

クラリネットと弦楽四重奏のための室内楽曲。友人アントン・シュタートラーのために作曲。美しい旋律は, 天上界に浮かんで漂うかのような感覚をもたらす。

<ケーゲルシュタットトリオ>より 第 1 楽章

ピアノ、クラリネットとヴィオラのための三重奏曲。ボーリングの前身である「ケーゲルシュタット (九柱戯)」に興じながら作曲したとの逸話から, この名称がある。幸福感に満ちあふれたこの作品は, 生まれて間もないクラリネットという楽器の可能性をほとんど全て出し尽くしていると言われる。

☆ヨハネス・ブラームス（1833～1897）

＜ヴァイオリンソナタ第1番「雨の歌」＞より第1楽章

1879年夏、オーストリア南部ヴェルダール湖畔の避暑地ペルチャハで作曲。
第3楽章冒頭の主題が、ブラームスの歌曲「雨の歌」の主題を用いているために、
後に「雨の歌」と呼ばれるようになった。

＜ピアノ四重奏曲第1番＞より第1、4楽章

1861年、クララ・シューマンらにより初演。上行・下行・上行する第1主題の
動機を基に、さらにそれらを反転させながら進行する旋律を、シェーンベルクは
「限定された旋律美」と述べ、保守的な作曲家と言われたブラームスの革新性を
表すものと評した。

☆フランツ・シューベルト（1797～1828）

＜アルペジオーネソナタ＞より第1楽章

アルペジオーネは1824年頃に創作された6弦の弦楽器で、弓を用いて演奏し
た。24のフレットがあり、ギターの特徴も持つことからギター・チェロとも呼ば
れた。シューベルトのアルペジオーネ・ソナタは1824年に作曲されたが、出版
された1871年には、すでにアルペジオーネそのものが忘れ去られた楽器になっ
ていた。現代ではチェロで演奏されることが多いが、ヴィオラ、フルート、クラリ
ネットでの演奏もある。

☆カール・マリア・フォン・ウェーバー（1786～1826）

＜グランド・デュオ・コンチェルタント＞より第3楽章

最初に終楽章（第3楽章）ロンド、次に中間楽章アンダンテ、そして最後に第1
楽章アレグロと逆行するような過程で作曲されたが、音楽構成上はバランスの取
れた秀逸作品。ウェーバーの友人であり、19世紀を代表する名クラリネット奏
者ハイリンヒ・ベールンに献呈された。